

# ガニコ親父の

雨降りの日曜日、長男士郎の息子「博喜」が一人で松次郎の家に遊びに来た。七月に東京から児童キャンプで島にやってくるお友達のために、夏らしい「怖い話」を紹介したいので、何か教えて欲しいとのことだった。すでに「しまっちゅ伝蔵」を飲んでいた松次郎は「ヤツと笑って、よくスナックで聞かされた話を聞かせてあげることにした。夜更けのアダンの森では、吸血鬼たちが騒いでいた。「最近の人間たちは、自分の健康にはもっと気をつけなさいけないのでは無いが」そういえば、今夜吸ったやつは血なんか最低な味やったばい」と、最近博多から流れてきた吸血鬼が言った。ダイエツトやらするけん、妙に血が薄か。それに化学調味料の味までするとばい。最悪たい」

## 奄美黒糖焼酎

それを聞いていた地元の畜育ちの吸血鬼も「血色の良い太ったやつは血も同じようなものよ」と、虚しそうな顔をした。「なんかすごく油っぽくて、ドロドロだったよな」「あ、昔よく味わった、さらさらとした自然な風味の血液が恋しい」

毎日、日が暮れると吸血鬼たちはアダンの森を出て新鮮な人間の血を求めた。それは、人間が食事を摂るように、彼らが生きていくための必要な行動だった。しかし、最近では命の綱である人間の「血液」の劣化が顕著だった。

食の西洋化による高カロリー摂取、自然食品より加工食品を食べるようになった現代人の血液はもつすでに健康ではなく、しわ寄せを受けた吸血鬼たちにも健康被害が出始めた。原因不明の高熱の後、牙が抜け落ち、命を落とすものまで出てきたのだ。もう、味だけの問題ではなくなっていた。一族存続の問題に発展するかもしれない。

その時、ギツツという音とともに重い棺桶の蓋が持ち上がり、中からドラキュラが目をギラつかせて現れた。そのルーマニア生まれの吸血鬼は、みんなが騒いでいるわけを聞くと「よし、俺に任せとけ」と恐ろしい牙を光らせた。

「お前たちには見る目がないのだ。ここから少し離れてはいるが、健康な若い女が働いている店を知っているぞ。一緒にいって来るか？」とドラキュラはみんなを連れてその食品店に向かった。しかし、目指した食品店の灯りはすでに消えていて、扉は閉まっていた。ドラキュラは二十四時間営業の「コンビニ」の勘違いをしていたのだ。「ついでに俺に恥をかかせてくれて、えらい。次に来る時は目にモノ見せてくれるわ。」

ところでこの店、明日は何時に開くのさ？」隣にいた吸血鬼が扉に書かれた営業時間を見ながら「なんだ、開くの十時か」と言った。それを聞いたドラキュラは急に苦しみ始めた。「悪の十字架」と聞き取ってしまい、にんにくとも嫌っていた十字架という言葉に触れてしまったのだ。ええっという断末魔の声を発してドラキュラの息はあっけなく途絶えた。

「ところでお爺ちゃん、子どもは血って美味しいの？」「ふふっ、若い女の人より、もっと美味しいらしいぞ」。博喜はブルッと首をすくめた。



# 伝蔵

でん ぞう

常圧蒸留

昔ながらの手造り  
こだわり焼酎

喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統を受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。



2014年春季全国酒類コンクール・黒糖焼酎部門第1位受賞

25度  
好評発売中

喜界島酒造株式会社  
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12  
TEL 0997(65)0251

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。

the most beautiful villages in japan  
喜界町 鹿児島県

# 吸血鬼に乾杯!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。